

2009年12月21日

成瀬ダムをストップさせる会

代表 奥州光吉

横手市十文字町植田字一ツ屋 71

要 望 書

平成22年度予算の策定にあたり、無駄な成瀬ダム事業を見直し、貴重な税金を県民生活防衛のために再配置されるよう、強く要望します。

- (1) 成瀬ダム事業を中止し、進行中の無駄な工事を停止すること。
 - ・2001年事業開始にもかかわらず原石山の選定がいまだ完了していない、地盤が脆く地滑り地帯があるなど、当初の事業費を大幅に上回る可能性がある。
 - ・現在行われている転流工や橋梁上部工の工事は無駄になる可能性が強い。
- (2) 成瀬ダム事業の根拠となっている国営平鹿平野農業水利事業について、代かき期に暫定水利権を2倍以上(14.88 m³/秒から30.29 m³/秒)としたことを見直し、適正な規模に縮減すること。
- (3) 成瀬ダムの代替案として、夏期の農業用水確保について、既存の皆瀬ダムの運用を地域主権のもとに地元に移管し、柔軟な運用(現在は洪水期:7月1日までに貯めた水を放流しているが、今後は最新の気象情報のもとに貯放水を柔軟に行うこと)ができるようにすること。
- (4) 秋田県知事の「(成瀬ダム)中止なら代替案を」という発言を受けて、国土交通省、農林水産省等は地元と具体的な代替案の協議に入ること。

以上